

沖縄高専図書館だより

創刊号（通号第1号）

～創刊にあたって～

図書館長 山城光（機械工学システム工学科）

「図書館だより第一号発行」とのこと大変喜ばしく思います。図書館からの情報発信手段の一つとして、または活動報告、新刊図書を紹介、読者紹介など、キャンパスライフに一種のスパイスとなる話題を提供してくれるものと期待しています。ここで私から“スパイスの提供”とはいきませんが、自分の専門と絡めた“苦しまぎれの一筆”、ちょっと一服程度に目を通していただけたら幸いです。

皆さん、“ポテンシャルエネルギー”ってご存じですか？沖縄高専の学生ならほぼ全員が耳にしたことのある用語だと思います。辞書によると、**潜在力、能力、可能性、または位置、電位などにまつわるエネルギー**と訳されています。また物理の講義などで次のような説明を受けた記憶をお持ちの方もいるかもしれません。

「静止している一つのボール、それを持ち上げて落下させるとそのボールは外部に対して仕事を行うことができる。すなわち、外からの作用により基準面より高く持ち上げられたボールには、外部に対して仕事を行える能力・可能性が宿り、潜在的なエネルギーを体内に蓄えたことになる。」つまり、“**外部に仕事を行える可能性・潜在力・能力を有している**”という意味合いがポテンシャルエネルギーなのです。さらに拡大解釈すると、“**学習する**”とは個々のポテンシャル（潜在力・能力・可能性）を高めるための行為であり、**学校そして我々職員は学生諸君のポテンシャルエネルギーを高めるために日々活動をしていることになる**のかもしれない。このようにポテンシャルエネルギーという専門用語には、学習の意義、学校の役割といった教育現場で求められる事項と相通ずるとも愛着のある用語であると言えます。

在校生の皆さん、ポテンシャルエネルギーの源である図書館を大いに活用してください。3月に卒業を迎える第一期生の皆さん、これまでに蓄えたポテンシャルエネルギーをこれからは積極的に社会に還元してください。それと同時にこれからもポテンシャルエネルギーを高める努力を怠らないでください。実社会ではポテンシャルエネルギーを使うことと高め蓄積することとが同時に求められてきます。人間の潜在力・可能性はいつまでも発展途上であり無限大であると私は信じています。

最後となりますが、保護者の皆様、沖縄高専図書館では昨年より土曜開館を実施しております。土曜のひと時、図書館に足を運んでいただき学生時代に戻った気分でご来館心よりお待ちしております。

以上、本日のキーワード“ポテンシャルエネルギー”についてでした。

学生会図書委員会委員長 宮里友美（メディア情報工学科3年）

小説から専門書まで、様々な分野の本が数多くそろっている沖縄高専の図書館。そこには勉強や息抜きに来ている学生がたくさんいます。

そんな沖縄高専の図書委員の主な仕事は、図書館の書架整理です。返却された本や本棚の本を分類番号通りに並べるという単調な作業ですが、やってみると「こんな本も入っているんだ」と新しい出会いや面白い発見もあり、結構楽しんでいきます。活動自体はそんなに目立つことはありませんが、オープンキャンパスでは図書館の案内をしたり、本好きが多い沖縄高専の年に1度の静かな大イベント「ブックハンティング」などではクラスでの本の希望調査の集計や、直接書店まで行ってお薦めの本を買ったりとここぞとばかりに本好きの力を発揮しています。この図書館だよりで沖縄高専の図書館の活動や魅力を少しでも知ってもらえると嬉しいです。

第2回ブックハンティングを開催

昨年度に引き続き、下記のとおりブックハンティングを行いました。

平成20年12月4日(木) 戸田書店浦添店 参加者：14名(学生図書委員会)

平成20年12月9日(火) 宮脇書店名護店 参加者：5名(学生図書委員会)

購入冊数：314冊 引率：教員4名、図書館職員2名

❖ ブックハンティングとは？

学生が本屋に行って本を買うイベントです。学生会図書委員が各クラスのリクエストを元に購入図書を決めます。学生の意見が図書館の蔵書に直接反映される機会となっています。

また、学生会図書委員は選んだ本を図書館の棚に並べ、お勧めの本の「ブックレビュー」を書いて本の紹介も行います。

ブックハンティングに参加して〈学生会図書委員より〉

冬になると図書委員のメインイベント『ブックレビュー』があります。なんと、1クラスあたり約2万円分の本が買えます。その後も直々に本屋まで出向き5千円分まで好きな本を選べます。図書委員は1クラス1人までです。すぐに取りられてしまう可能性大なので、これを読んでなりたくなったあなた、Let's try!

【1年生 福井隆浩 情報通信システム工学科】

図書館の本棚に私が選んだ本を見かけ、誰かが読んだ形跡に「この本、気に入ってくれたかな」と思うと嬉しくなります。

友人にも「読みたかった本があって嬉しい」と喜ばれたので参加してよかったと思います。

【4年生 安佐伊美夏 生物資源工学科】



普段自分の利用する図書館に、自分で選んだ本を入れることができるというのはすごく貴重な体験でした。図書委員のみんなで本屋さんへ行って色々な本をみながら一冊一冊選んでいきました。すごく楽しかったです。ブックレビューを書くのもとても面白かったです。図書委員になることが出来て本当に良かったと思いました。

【2年生 平良優乃 メディア情報工学科】

私は今回初めてブックハンティングに参加させて頂きました。以前から興味を持ってはいたのですが実際に参加してみて自分で本を選ぶ楽しさを感じることが出来ました。私もこれでブックハンターになれたと思うと、身が締まる思いでした。丁寧にご指導ご鞭撻承り、先生ならびにハンターの先輩方に感謝申し上げます。

【5年生 真喜志一 生物資源工学科】

～引率の先生から一言～

書店に着いた私はワクワクしていた。目に付いた本を手に取りあらずじに目を通す。どれもこれも面白そうで、ついつい本編を読んでしまいそう。そんなことを考えながら店内をぐるぐるしていると時間も忘れてしまいそう。どうやら本当に忘れてしまったようだ。私は急いで帰りのバスに乗り込んだ。

【3年生 石堂若葉 生物資源工学科】

私が高校生の頃、毎日図書館と書店や古本屋を巡ってから帰宅したものである。本校の学生はそのような活字に気軽に楽しむ環境にはないので、と思う。ブックハンティングに参加した学生は皆読書の楽しさを知っている者であり、彼らが選んだ書籍はやはり同年代の心を捉えるはずである。読書の楽しさが学生間で波及することを願いたい。【田邊俊朗：生物資源工学科教員】(当日引率)

私と図書館の5年間

5年生 當間かおり（メディア情報工学科）

入学当初の図書館は空の本棚が目立ち、蔵書といえば専門書ばかりで味気のない場所でした。年度を重ねることで今の図書館になっていったのですが、それでもまだ物足りなさを感じる人はいると思います。でも、ここで並んでいる本を眺めてみてください。ずいぶんと学生のリクエストが反映されているのがわかると思います。

これには、ブックハンティングが大きく貢献しています。私は5年間で2度図書委員になりブックハンティングに参加した経験があります。多くはないけれどリクエストをいくつかもらい書店にも直接足を運びました。書店は個人的にもよく行く場所ですが目的が違くと、「本」といっている物の種類の豊富さに改めて気付かされました。

読書は娯楽であり、知識を得ることのできる有意義なものです。長いようで短い5年間の学生生活。図書館を自習や集まりの場としてだけじゃなく、新たな興味を発掘する場所として利用してみるのはどうでしょう。

5年生 崎原孫周（情報通信システム工学科）

私の高専生活を語る上で図書館の存在は欠かせないと言える。私は無知であった。入学当初、私は期待に胸を震わせた。「やあ、なんと素晴らしい学び舎だろう。これは図書館もさぞかし立派に違いない」しかしそうではなかった。

私が入学した2004年の時点では図書館はまだ雀の涙ほどの冊数しか書籍がなかったのだ。私は激怒し悲しんだ。「なんと言うことだ！これが私の期待した図書館の姿か！ええい、責任者を呼べ！私のわくわくを返せ！」過度な期待の先には失望があることを知った。だが、悲しみにくれる私を救ったのもまた図書館であったのだ。ある日図書館が語りかけてくるのを私は感じた。「君、何をそんなに悲しむ？」「おお図書館よ、私は悲しい。ぽっかりと隙間の空いた本棚を見ることが」「いいえ、それは間違っている。初めから満たされている本棚などないのです」「おお図書館よ、私は悔しい。こんな立派な図書館に本が全然無いことが」「いいえ、それは間違っている。いつまでも本が無いわけではありません。これから私は成長するのです」事実、私が2年、3年と学年が上がるごとに蔵書量は目に見えて増加していった。

私は、我が子が成長するのを喜ぶ親の気持ちが分かったような気がした。「そうか、私は間違っていたんだ。誰でも昔は幼年期だったように図書館も幼年期だったのだ。私は皆と共に成長しようと言いながら、図書館も成長するということを忘れていたんだな」私と図書館の心が通じ合った瞬間であった。その2年後、私は卒業することになる。だが、私は忘れないだろう、図書館と共に過ごした5年間の事を。

目次

P 1	創刊にあたって	P 2	第2回ブックハンティングを開催
P 3	私と図書館の5年間		
P 4	コラム～私の書棚～	P 4	図書館からのお知らせ

世界に手が届く場所

〈学校〉という場所に我が身をおいて、早25年。自らの学生時代を含めればずいぶん経ったものだと思う。〈学校〉には、異空間とも呼ぶべき場所がある。一つは保健室、もう一つは図書館である。緊張感みなぎる（そうあって欲しい）教室という場所から逃れて、〈合法的〉に身を寄せられる場所である。

その中でも、図書館は、〈未来〉そのもののようと思われる。現実的には、〈駆け込み寺〉のように、図書館にやって来る人がいる。いつも締切りぎりぎりにならないと、身体が反応しない人がいる。それでいて、日々は安穏かというところではない。〈焦り〉は、日常的にまつわりついている猫のごとき存在と化している。〈情報〉は必要なことだけしか手に入らないし必要とはしていない。

あるいはゆったりと、時間が過ぎゆくのを味わっている人がいる。〈静かさに耳を澄ます〉みたいな時間に身を漂わせている。知らないことが次から次へと繰り出されていく、ネットワークのマジックにワクワクしている。まだ〈何者でもない〉若者が、何者かになろうともがきながら、〈世界〉をこの手でたぐり寄せようとする。欲しいことが無数にあり、〈情報〉は無限に広がる空のごときものである。

〈未来〉は常に自分の手のひらの中にある。その手で〈世界〉に触れてみてはどうだろう。

図書館からのお知らせ

開館カレンダー（4～6月）

黒：8：40～20：00

青：8：40～17：00

緑：9：00～17：00

赤：休館

4月

日	月	火	水	木	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

最新の情報はホームページで確認できます。

学生リクエストの受付

図書館では学生からの図書購入のリクエストを受け付けています。図書館カウンター備え付けの「リクエスト（予約）カード」に必要事項を記入して図書館職員まで提出して下さい。

（※リクエスト通りに購入できない場合もありますので予めご了承下さい。）

奥付

「沖縄高専図書館だより」創刊号（通巻第1号）

編集・発行：沖縄工業高等専門学校図書館

発行日：平成21年3月